

研究開発課題別事後評価結果

1. 研究開発課題名：高速画像処理を用いた知能システムの応用展開
2. 研究代表者：石川 正俊（東京大学 情報基盤センター データ科学研究部門 特任教授）
プログラムマネージャー：岸 則政（科学技術振興機構）
3. 事後評価結果

本研究開発課題では、高速画像処理、高速知能システムの共通基盤コア技術と5つの応用分野に対して研究をすすめてきた。多くのテーマをPOCとして研究を実施し基礎・応用、短期・長期を織り交ぜながら最終的に20個のPOCの研究をすすめ、その結果、企業との連携によりダイナミックプロジェクションマッピングなどに利用される高速プロジェクタや高速ビジョンモジュールなどは既に製品化されている。その他、高速走行型トンネル検査、眩しくない高速眼底カメラなどのシステムにおいては実用化への筋道をつけ社会実装への橋渡しという本プログラムの目的を達成した。

また高速画像処理、高速知能システムの研究分野において人材育成にも尽力し多くの研究者を輩出し数多くの成果を生み出している。

同時にINPITから参画した知財プロデューサーとACCEL開始当初連携体制を構築し研究代表者、プログラムマネージャーとの緊密な知財推進体制を構築しコア技術の知財化とともに各研究者に対する知財マインドを醸成した。

また多くの分野への論文発表や新たな価値を想起させる動画の作成・公開などを積極的に実施した。これら動画は世界にむけて2020年末で累積1700万回以上が再生され大学研究室単独としては圧倒的な情報発信力となっている。これら情報展開を元とした社会からのフィードバックにより社会実装に向けて研究が加速されることはもちろん新たな研究テーマが生まれるなど、並列スパイラルモデルというべき研究開発体制を構築・実践している。

以上のことから、非常に優れた成果が得られたと評価できる。

今後も、基礎研究と産学官連携を発展・継続することでACCELの成果が社会実装に向けて着実に継承されることが期待できる。

以上